

積善

題字 第241世天台座主 玄深師(惠亮院威)

餘慶寺だより

編集・発行 上寺山餘慶寺

〒701-4232 岡山県瀬戸内市邑久町北島 1187
納経所 TEL 086-942-0186 FAX 086-942-0187
惠亮院 TEL/FAX 086-942-3788
本乗院 TEL 086-942-2791 FAX 086-239-5823
吉祥院 TEL/FAX 086-942-3789
定光院 TEL 086-942-2356 FAX 086-944-1490
明王院 TEL 086-943-1030 FAX 086-943-1069
圓乗院 TEL 086-942-2356
ホームページアドレス <http://www.yokeiji.com/>

餘慶寺寺宝展

十月十二日(月・祝日) 九時三十分～十六時
会場 本堂・薬師堂・餘慶寺会館

今年で第十三回となりました餘慶寺寺宝展が開催されます。昨年(は)は上寺(の)梵鐘(ぼんしやう)(県指定重要文化財)に焦点を当てて特別講演をいたしました(が)、今年(は)さらに範囲を広げ、上寺(に)伝わる梵音具(ぼんのおんぐ)鳴らす金属製仏具(ぼんぶつ)について、九州国立博物館望月規史(もちづきののりみ)先生の講演会を十三時より餘慶寺会館で行います。

なお、この日には、隣接する豊原北島神社(とよはらきたしまじんじゃ)で恒例(ていれい)の秋の大祭(あきのおおまつり)が執り行われる予定です。出店(いしだ)や家庭(けいけい)婦人(ふじん)方(かた)の「もみじカフェ」もあり、きつとにぎやかな秋(あき)の一日(いちにち)になる(こ)と(し)ょう(う)。



餘慶寺本堂内の鑿子



昨年の特別講演の様子

餘慶寺 秋の行事

寺宝展(本堂・薬師堂)
十月十二日(月・祝)
九時三十分～十六時
講演会 十三時
～十四時三十分
餘慶寺会館

奉納書道展
(餘慶寺会館)
十月十二日(月・祝)より

もみじカフェ(会館北側)
十月十二日(月・祝)
十時～十六時

天台会(本堂)
十一月二十三日(月・祝)
十六時

天台宗を開いた天台大師のご命日です。餘慶寺本堂では内陣の右奥にお祀りしてあります。前夜にも法要があり、「天台大師和讃」を読みます。

各院からのお知らせ

惠亮院より
毘沙門天王縁日護摩祈祷
(於 惠亮院毘沙門堂)
毎月三日 午前十時

本乗院より
写経会(於 本乗院客殿)
毎月第三日曜日
四月～十月 午前六時
十一月～三月 午前七時

定光院より
大聖歡喜天縁日(於 定光院)
毎月十五日 早朝より
※病氣平癒等のご祈祷は随時受付しています。

餘慶寺からのお知らせ

薬師縁日(於 薬師堂)
毎月八日 午前十時
護摩供養をしています。

観音縁日(於 本堂)
毎月十八日 午前八時
みんなで観音経をあげます。お経本は本堂にありますので、お気軽におまいり下さい。

十三仏について～阿闍如来～

阿闍如来(七回忌)
七回忌の仏さまは阿闍如来さまです。密教の金剛界五仏のおひとり(ひとり)で、単独(ただ)でお祀り(まつ)される例(れい)はほとんどありません。インド(インド)の言葉(ことば)では「アクシヨービヤ」というお名前(な)で、「揺るぎない」という意味(いみ)です。

阿闍如来さまはとても意志(いし)が強く、やろうと決めたことをサボ(さ)ったり誘惑(ゆうわく)に負(ま)けたりすることがない仏(ほとけ)さまです。また阿闍如来さまは仏(ほとけ)さまとなられる前の修行(しゆぎやう)中に、人間(にんげん)はもろ(もろ)ん(ろ)のこと、小さな虫(むし)など(など)に対(たい)しても決して怒(こ)りの心(こころ)を起(た)こさないという誓(ちか)いを立て(た)てられました。その誓(ちか)いを守(まも)りついに仏(ほとけ)さまにな(な)りました。

生きてい(い)れば、イライラ(いらいら)することもあ(あ)ります。他(た)の人のこと(こと)をうらやま(うらやま)しいと思(おも)うこと(こと)もある(あ)るで(で)しょう。そんな時(とき)でも沈(しん)着(ちやく)に、心(こころ)清(きよ)く、正(ただ)しい心(こころ)を持(も)つこと(こと)が大事(だいじ)だと教(おし)えら(ら)れていま(いま)す。



よけいじ寺子屋だより

会場 餘慶寺会館(十四時～)

寺子屋写真館



今後の予定

- ☆ 初心者向け 戒名のお話 九月六日(日) 岡本昌幸師 講師 明王院法嗣
- ☆ 須恵器と寒風古窯跡群について 九月二十七日(日) 講師 瀬戸内市中央公民館館長 馬場昌一先生
- ☆ 餘慶寺に伝わる梵音具と音を鳴らす仏具類(仮) 十月十二日(月・祝) 望月規史先生 十月三十一日(土) 岡本昌幸師
- ☆ 観音さまについて 十月三十一日(土) 講師 明王院法嗣
- ☆ 楽しく年賀状づくり 十一月二十二日(日) 講師 日本画家・岡山日展会会員 神戸淑子先生
- ☆ 仏教に出会える幸せ 十一月二十八日(土) 講師 餘慶寺住職 土井内祐真師
- ☆ 伝教大師願文読誦解説 十二月五日(土) 講師 明王院住職 中尾毅海師

※聴講無料です。
十月十二日(月・祝)は十三時～十四時半開催です。
十一月二十二日(日)は十四時～十六時開催です。

編集後記

皆様にご愛読(あいどく)いただ(い)て(て)お(お)り(り)ます(す)積善(せきぜん)、今(いま)号(ごう)は五十一号(ごじゅういちごう)とい(い)う(う)こと(こと)で(で)一〇〇(ひゃく)号(ごう)に向(むか)う(う)て(て)気(き)持(も)ち(ち)新(あたら)し(し)に(に)また(また)一(いっ)歩(ぽ)を(を)踏(ふ)み(み)出(で)しま(ま)した(し)た(た)。ご意見(ごいけん)等(とう)ご(ご)ざ(ざ)い(い)ま(ま)した(し)ら(ら)是非(是非)お(お)知(ち)ら(ら)せ(せ)く(く)だ(だ)さい(さい)。

今年(ことし)の夏(なつ)は猛(まう)暑(じゆ)続(つ)き(き)で(で)大(だい)変(へん)暑(じゆ)か(か)った(た)こと(こと)と思(おも)います(す)。残暑(ざんじゆ)も(も)厳(げん)し(し)そ(そ)う(う)です(す)が(が)、健康(けんこう)に(に)気(き)をつ(つ)けて(て)お(お)過(か)ご(ご)し(し)く(く)だ(だ)さい(さい)。

奉納書道展、締め切り迫る！(九月二十日(日)まで)

各院または納経所へお届け下さい。

「宙ぶらりん」〜新たな歴史を刻む〜

「明るい朝の学びやに 上寺山のかねがなる
と唄われる今城小学校の校歌にも出てくる上寺の鐘（梵鐘）は、普段から鐘楼に「宙ぶらりん」に吊り下げられているものです。

上寺の梵鐘は、今年の正月、九州国立博物館の特別展に出品のため持ち出され、会期を終えて六月に返却される予定でありました。しかしながら、それを吊る金具に亀裂があることが判明し、安全性が保てないということ、帰るに帰れなくなりました。いわゆる別の意味で「宙ぶらりん」の状態になってしまったのです。

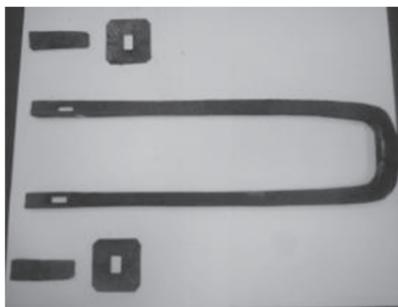
その困った状態に活路を開くため、同じ瀬戸内市内の、長船町に伝承される刀剣の鍛錬技術を生かして、腕利きの安藤広康刀匠にしっかりと吊金具を作ってもらうこととなりました。

完成のあかつきには刀匠の銘も刻まれ、新たな結びつきの歴史が、地域をまたいで加わることになるのです。

※梵鐘は十二月上旬に帰山されます。



上寺の梵鐘



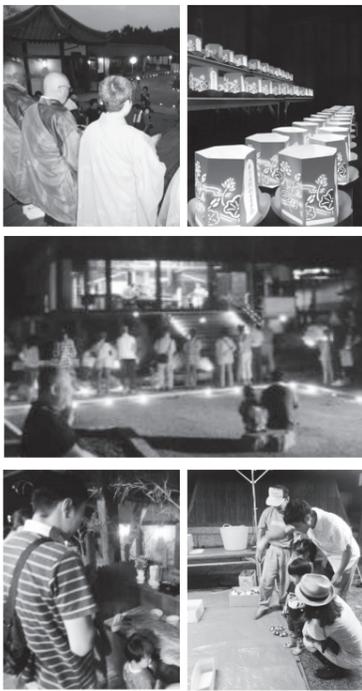
亀裂の見つかった現在の吊金具

「水祭り」ご報告

八月二十九日（土）十八時より、餘慶寺本堂・境内において水祭り（施餓鬼会・万灯会）を厳修いたしました。

「施餓鬼会」とは、餓鬼（用う者のない無縁の亡者）のために様々な種類の飲食を施す法会です。また、「万灯会」とは、仏さまに灯明を供え、滅罪生善や諸願成就を祈念する行事です。

当日は、直前まで雨模様でしたが、法要が始まると雨が止み、老若男女問わずたくさんの方々が参拝に来られました。薄暗くなつて行われた万灯会では、境内を照らす供養の灯りで境内が荘厳され、そこに尺八・琴の演奏が重なって、癒しの空間が広がっていました。さらに、同時開催された今城コミュニティ・寺庭婦人による縁日広場は、たくさんのご家族が訪れ、行列ができるほどの賑わいとなり、自然と笑顔がこぼれていました。



ひとくち法話

彼岸

秋のお彼岸が近づいてきました。中日である秋分の日、太陽が真東から昇って真西に沈み、昼と夜の長さがほぼ同じになる日といわれます。

仏教では悟りの世界を彼岸といい、その反対側の私たちがいる迷いや煩惱に満ちた世界を此岸といいます。

彼岸は西に、此岸は東にあるとされており、太陽が真東から昇って真西に沈む秋分は、彼岸と此岸がもつとも通じやすくなることを考え、先祖供養をするようになりました。

日の沈む西は亡くなった人々の住む世界ととらえられており、お経の中にも沈む夕日を見ながら、極楽浄土やご先祖さまのことを思う「日想観」ということでもできます。

お彼岸は「日願」でもあるため、日本では太陽の神を信仰する神道と結びつきやすかったという説もあります。また、春の種まきや秋の収穫とも結びつき、自然に対する感謝や祈りがご先祖様に感謝する気持ちにもつながって、お彼岸は大切な行事となりました。

秋の彼岸の中日である「秋分の日」は国民の祝日です。祝日法によると「祖先をうやまい、なくなつた人々をしのぶ日」だそうです。

暑さ寒さも彼岸までといえます。過ぎしやすくなつた秋の夕暮れに、沈む夕日を見てご先祖さまを想う時間をもつてみてはいかがでしょうか。



団参報告と可愛い花地蔵のご案内

六月二十七日、山陽花の寺霊場の大聖寺（美作市）と玉泉寺（真庭市）にお詣りしました。大聖寺ではアジサイを、玉泉寺ではオオヤマレンゲを愛でながら、お寺方の親切なおもてなしもあり、心癒やされる一日でありました。ご参加いただきました皆様、ありがとうございました。

またこのたび、山陽花の寺霊場会では、全二十四ヶ寺に可愛らしい花地蔵がお目見えしました。餘慶寺にも「夢咲く地蔵」と名付けたお地蔵さんが、境内でにっこりと微笑んでいます。お参り際にはお頭をなでてみて下さい。愛くるしい笑顔が心を癒やし、不思議と元気になりますよ。



大聖寺にて集合写真



私、「夢咲く地蔵」と申します。どうぞよろしくお願ひします。餘慶寺の境内にいたので見つけたら頭をなでてみてね。